

# 依頼場面における中国語の「断り」ストラテジー に関する研究ノート

A note of “refusal strategies in request situations” in Chinese

宮本 大輔  
MIYAMOTO Daisuke

**提要** 筆者就“拒绝”会话策略问题对汉语母语者做了问卷调查。通过分析问卷调查的结果，对汉语中的“拒绝”会话策略提出以下假设：汉语中的“拒绝”会话策略大部分是由两个或者两个以上的策略组成的，这些策略能够分为结果明示型策略和结果暗示型策略两种。结果明示型策略指对请求者明言没有这个能力或者无法做到。明示型策略又可以分为间接性表达和直接性表达。结果暗示型策略指通过对请求者说明自己的情况、提出其他建议等策略以使对方明白无法答应其请求。

**キーワード**：中国語、依頼場面、「断り」のストラテジー、質問紙調査

## 目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 調査概要
4. 結果と分析
5. おわりに

### 1. はじめに

本稿の目的は、依頼場面における「断り」ストラテジーにはどういったものがあり、その使用が依頼者との親疎、上下関係によりどのように変化するかについて、仮説を導き出すことである。

我々は日常生活の中で他者から何らかの依頼をされた際、それを承諾するか、あるいは断るかという選択肢に迫られる。承諾する場合は一言で済む。だが、断る場合には、FTA (Face Threatening Act) を最小限にとどめ、相手との関係を維持するために言葉を慎重に選ぶ必要がある。したがって、依頼を承諾することが優先選好形式 (preference structure) <sup>1)</sup>で

あり、依頼を断ることは非優先選好形式となる。そして、依頼を断る場合には、FTAを補償するため、理由の説明や代案の提示、断ることへの躊躇といった対人配慮を含んだ“断りのシークエンス”が形成される(滝浦真人(2008:108))。

FTAの補償行為は、ポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスに分けられる。前者は接近を基にしており、聞き手が求める肯定的自己イメージに向けられるもので、聞き手の欲求の幾分かを話し手も望んでいると請け合うことによって、その行為によるフェイスへの潜在的脅威を弱める働きを持つ(ブラウン&レヴィンソン(2011:91))。一方、後者は忌避を基にしており、聞き手の自分の縄張りや自己決定権を守ろうという基本的欲求に向けられるもので、聞き手がフェイスを保って回避できる、何らかの緩和策を講じたりすることにより、FTAを補償する(ブラウン&レヴィンソン(2011:91))。

日本語における「断り」ストラテジーに関する研究はこれまでも多く行われているが、現代中国語の「断り」ストラテジーに関する研究は数に限りがあり、体系化されているとは言えない。本稿では、筆者が実施した予備調査の結果に基づいて、依頼場面における現代中国語の「断り」ストラテジーについて、初歩的な議論を行う。

## 2. 先行研究

現代中国語における依頼を断る際の言語行動に関する先行研究は、加納睦人・梅曉蓮(2002)、施信余(2005)、蒙韞(2010)等がある。

まず、加納睦人・梅曉蓮(2002)は、談話完成テスト(Discourse Completion Test)の結果から、日本語及び中国語における「断り」の表現の差異について分析したものである。そして、従来の研究では、中国人は直接的な表現を用いるとされていたが、中国でもコミュニケーション教育が重視されるようになり、日本人と同様、比較的礼儀を保ち、婉曲な表現を用いるようになったと結論付けた。

次に、施信余(2005)は、自然会話データを用いて「断り」の言語行動を分析し、自然会話データと談話完成テストによる言語使用意識データの結果には違いが見られることを示した。

そして、蒙韞(2010)は、会社の依頼場面における「断り」ストラテジーの日中対照研究を行った。意味公式に基づいた緻密な分析を通して、「断り」の言語行動全体では、詫び、理由、代案、呼称の意味公式が最も多く用いられ、各言語表現における日中間の差異を明らかにした。

これらの研究は、個々のケーススタディとして学術的価値が認められるが、被験者の属性が均等ではないこと、あるいは会話の相手が友人のみであることから、結果を普遍化するまでには至っていない。

### 3. 調査概要

#### 3.1 調査期間及び調査対象の属性

本調査は、2019年10月～2020年1月、長野大学及び神奈川大学に所属する中国語ネイティブ30名、東京で勤務する40代の中国語ネイティブ30名を対象として実施した。調査対象を学生及び社会人としたのは、年齢による使用意識の差を探るためである。だが、回収することのできた有効回答数は、16部（社会人2名、学生14名）だった。また、有効回答の男女比は均等（男性8名、女性8名）だったが、サンプル数が少ない。したがって、本稿では、年齢差及び性差については扱わないこととする。

#### 3.2 調査方法

調査方法は縁故法による談話完成テストを採用した。具体的な質問紙の内容は表1の通りである。場面は借金の依頼、依頼者（即ち、「断り」の対象）は上司、友人、親戚の三者とした。したがって、三つの状況における「断り」のストラテジーを観察することが可能である。

表1 質問項目

- |  |
|--|
| Q1 请问，有一个 <u>上司</u> 说急着用钱要借您钱，您怎么拒绝？<br>Q2 请问，有一个 <u>朋友</u> 说急着用钱要借您钱，您怎么拒绝？<br>Q3 请问，有一个 <u>亲戚</u> 说急着用钱要借您钱，您怎么拒绝？ |
|--|

質問紙の回答に現れた表現を分析した結果、以下の七つのストラテジーを抽出することができた。ストラテジー①「謝罪」、ストラテジー②「事情説明1（具体的説明なし）」（以後、本文中では事情説明1、表中では説明1と表記する）、ストラテジー③「事情説明2（具体的説明あり）」（以後、本文中では事情説明2、表中では説明2と表記する）、ストラテジー④「提案」、ストラテジー⑤「同情」、ストラテジー⑥「事実確認」（以後、表中では確認と表記する）、ストラテジー⑦「結論」である。

### 4 結果と分析

#### 4.1 相手が上司の場合

本場面では、婉曲・間接的な表現を使うという回答が14例（87.5%）、直接的な表現を使うという回答が2例（12.5%）確認された。これらの表現を分析した結果、この場面で現れたストラテジーは、①謝罪（婉曲・間接：6例、直接：2例）、②事情説明1（婉曲・間接：10例、直接：1例）、③事情説明2（婉曲・間接：6例）、④提案（婉曲・間接：2例）、⑤同情（婉曲・間接：2例）、⑦結論（婉曲・間接：3例、直接：2例）だった（表2）。また、複数のストラテジーを用いている回答数は表3のようになった。

表 2 各ストラテジーの使用状況①<sup>2)</sup>

	①謝罪	②説明 1	③説明 2	④提案	⑤同情	⑥確認	⑦結論
婉曲・間接	6	10	6	2	2	0	3
直接	2	1	0	0	0	0	2

表 3 複数使用されたストラテジーの使用状況①

	①②③	①②	②③	②④	①⑤⑦	③⑤⑦	③⑦	①②⑦
婉曲・間接	3	3	1	1	1	1	1	0
直接	0	0	0	0	0	0	0	1

ここからは具体的な表現を確認していく。

まず、婉曲・間接的な表現についてである。多く見られたのは、順に「ストラテジー②事情説明 1」、「ストラテジー①謝罪」、「ストラテジー③事情説明 2」、「ストラテジー⑦結論」だった。

「ストラテジー②事情説明 1」の回答としてあげられたのは、「自身が手元不如意である→お金を貸すことができない」と結論をほのめかすものだった。具体的な表現は以下の通りである。“最近手头有点紧”では個人の経済状況という意味を表す“手头”と経済状況に余裕がないという意味を表す“紧”を組み合わせ、自身が手元不如意であることを示している。なお、類似する表現として、“我最近生活也有点紧张”や“我现在手头儿也不怎么富裕”が見られた。“没闲钱”、“我这边可能暂时挪不出多余的钱”では、「生活に困窮するまではいかないが、余分なお金はない」と述べることにより、お金を貸すことができないことを相手に伝えるものだった。

「ストラテジー①謝罪」の回答としてあげられたのは、“不好意思”という謝罪表現だった。当該表現は本来、「恥ずかしい」、「後ろめたい」という意味を表すものだが、近年直接謝罪表現としても用いられるようになってきている。直接謝罪表現として用いられる場合には、謝罪場面が軽度の場合に多用され、心情的に気まずい状況に配慮される傾向がある<sup>3)</sup>。ここでは、借金を依頼してきた相手が上司であり、依頼を断った後も関係を維持していかなければならないことが考慮され、謝罪表現が使用されたと考えられる。なお、“不好意思”の前に程度を強調する副詞“实在(是)”や“真(是)”が置かれる回答も確認された。

「ストラテジー③事情説明 2」の回答としてあげられたのは、自身に金銭的な余裕がないことを示す具体的な事情を説明するものだった。“最近付了房子首付”、“我妈妈身体不太好，最近老区医院，又是挂专家号，又是开药的”、“孩子刚上幼儿园，每个月的开销一下子增加很多”、“最近家里急需用钱”のように私生活に関連するもの、“最近公司在办融资，资金比较紧张”のようにビジネスに関連するものと内容は多岐にわたるが、どれも自身が比較的多くの金銭を必要とすることを表すものだった。

「ストラテジー⑦結論」の回答としてあげられたのは、“很难帮到你”や“实在拿不出来”のような表現だった。前の3つのストラテジーと比較すると、かなり直接的な表現だが、「お金を貸すことはできない」と明言することは回避している。そのため、相手との関係性に配慮した表現ということができる。

だが、上記4つのストラテジーが単独で用いられた例は各1例程度で、他のストラテジーと組み合わせて使用されるものが大勢を占めた（表3参照）。「ストラテジー①②謝罪+事実説明1」が3例、「ストラテジー①②③謝罪+事情説明1+事情説明2」が3例、「ストラテジー②③事情説明1+事情説明2」が1例、「ストラテジー②④事情説明1+提案」が1例確認された。また、「ストラテジー①⑤⑦謝罪+同情+結論」が1例、「ストラテジー③⑤⑦事情説明2+同情+結論」が1例、「ストラテジー③⑦事情説明2+結論」が1例確認された。具体的には以下の通りである。

- (1) 实在是不好意思，最近付了房子首付，已经没有钱了。 (①③②、下線は筆者による、以下同様)
- (2) 不好意思，我最近手头也很紧。 (①②)
- (3) 家里最近用钱，没闲钱。 (③②)
- (4) 我现在手头也有点儿紧……要不我帮您问问？ (②④)
- (5) 不好意思，钱的方面我可能帮不了你多少，但是有其他事的话可以尽管找我。 (①⑦⑤)
- (6) 孩子刚上幼儿园，每个月的开销一下子增加很多，很想帮您，但实在拿不出来。 (③⑤⑦)
- (7) 最近公司在办融资，资金比较紧张，所以很难帮到你。 (③⑦)

相手が上司であることから、FTAを補償するために、「ストラテジー①謝罪」を用いたり、「ストラテジー②事情説明1」を用いて相手の依頼に応えられないことをほのめかす例が確認された。また、「ストラテジー⑦結論」を用いる場合でも、蓋然性のモダリティである“可能”を用いることで曖昧な表現とすることで拒絶の語気をやわらげ、直接的な表現を回避し、“很想帮您”のような表現を付加することにより相手との関係維持に努めている。

次に、直接的な表現についてである。ここでは、「ストラテジー⑦結論」にあたる“没办法把钱借给您”、“没办法借给你”が用いられた。だが、同時に「ストラテジー①謝罪」に当たる表現“不好意思”や“对不起”及び「ストラテジー②事情説明1」にあたる表現“我现在没什么存款”が用いられている。このことから、直接的な表現ではあるものの、相手が上司であることに配慮していることが分かる。具体的には以下の通りである。

- (8) 不好意思，我现在没什么存款，所以没办法把钱借给您。 (①②⑦)

## 4.2 相手が友人の場合

本場面では、婉曲・間接的な表現を使うという回答が9例(56.3%)、直接的な表現を使

うという回答が6例(31.5%)、粗野な表現を使うという回答が1例(6.3%)確認された。これらの表現を分析した結果、この場面で現れたストラテジーは、①謝罪(婉曲・間接:2例、直接:3例)、②事情説明1(婉曲・間接:3例、直接:3例、粗野:1例)、③事情説明2(婉曲・間接:5例、直接:1例)、④提案(婉曲・間接:1例)、⑤同情(婉曲・間接:2例)、⑦結論(婉曲・間接:2例、直接:2例)だった(表4)。また、複数のストラテジーを用いている回答数は表5のようになった。

表4 各ストラテジーの使用状況②

	①謝罪	②説明1	③説明2	④提案	⑤同情	⑥確認	⑦結論
婉曲・間接	2	3	5	1	2	0	2
直接	3	3	1	0	0	0	2
粗野	0	1	0	0	0	0	0

表5 複数使用されたストラテジーの使用状況②

	①②③⑦	②⑤	③⑦	①③	①②	①⑦	②③
婉曲・間接	1	1	1	1	0	0	0
直接	0	0	0	0	2	1	1

ここからは具体的な表現を確認していく。

まず、婉曲・間接的な表現についてである。多く見られたのは、順に「ストラテジー③事情説明2」、「ストラテジー②事情説明1」、「ストラテジー①謝罪」、「ストラテジー⑤同情」、「ストラテジー⑦結論」だった。

「ストラテジー③事情説明2」の回答としてあげられたのは、相手の依頼を断らざるを得ないことを示す具体的な事情を説明するものだった。具体的には、“啊！我刚剁手了×××，用的还是花呗……”、“借钱给别人了，他还没还我”、“最近公司在办融资，资金比较紧张”、“还得交学费啥的”、“我们家家训不借钱”のように内容は多岐にわたる。

「ストラテジー②事情説明1」の回答としてあげられたのは、「自身にお金がない→お金を貸すことができない」とほのめかすものだった。具体的には、“我也没钱了”、“我也没多少钱”、“我可能也没有那么多”と述べることにより、自身がお金を持っておらず、相手の期待に応えられないことを相手に伝えようと試みている。

「ストラテジー①謝罪」の回答としてあげられたのは、“对不起”及び“不好意思”だった。“对不起”は自身に過失がない場合は全く使用されない(彭国躍(2005:205))とする先行研究もあるが、本調査では相手の依頼に応えられないという意味で用いられているため、本人の過失があるとは考えづらく、“不好意思”と同様、心情的な気まずさに配慮していると考えるのが自然である。“不好意思”は4.1で記述したように、直接謝罪表現として用いられる場合には、謝罪場面が軽度の場合に多用され、心情的に気まず

い状況に配慮される傾向がある。ここでは、借金を依頼してきた相手が友人であることが考慮され、謝罪表現が使用されたと考えられる。

他のストラテジーと組み合わせたものは4例確認された(表5参照)。「ストラテジー①②③⑦謝罪+事情説明1+事情説明2+結論」が1例、「ストラテジー②⑤事情説明1+同情」が1例、「ストラテジー③⑦事情説明2+結論」が1例、「ストラテジー①③謝罪+事情説明2」が1例である。具体的な表現は以下の通りである。

- (9) 对不起, 我也没多少钱, 还得交学费啥的, 真帮不了你了。(①②③⑦)
- (10) 我可能也没有那么多, 你别急, 我再帮你想想办法。(②⑤)
- (11) 最近公司在办融资, 资金比较紧张, 所以很难帮到你。(③⑦)
- (12) 我们家家训不借钱, 不好意思啊。(③①)

次に直接的な表現についてである。多く見られたのは、順に「ストラテジー②事情説明1」、「ストラテジー①謝罪」、「ストラテジー⑦結論」だった。

最も多く見られたストラテジー②の回答例としてあげられたのは、お金がないという意味の“没钱”を含む表現3例——“我最近也没钱了”、“最近我也没钱花了”、“手头儿也没什么钱”だった。

ストラテジー①の回答例としてあげられたのは、“对不起”と“抱歉”である。前者は、直接謝罪表現としてプロトタイプ的な位置づけにある表現であり、後者は、身内以外の目上に用いられる(彭国躍(2005:206))とされる表現である。

ストラテジー⑦の回答例として挙げられたのは、“我现在没有钱借给你”と“没法借给你”である。それぞれ自身にお金がなく、相手の期待に応えられないという結論を表すものである。特に前者は、「今あなたに貸すお金はない」という直接的な表現である。

だが、上記四つのストラテジーが単独で用いられたのは“我最近也没钱了”のみで、他のストラテジーと組み合わせて使用されるものが大勢を占めた(表5参照)。「ストラテジー①②謝罪+事情説明1」が2例、「ストラテジー①⑦謝罪+結論」が1例、「ストラテジー②③事情説明1+事情説明2」が1例である。具体的な表現は以下の通りである。

- (13) 最近我也没钱花了, 抱歉。(②①)
- (14) 对不起。我现在没有钱借给你。(①⑦)
- (15) 我最近手头儿也没什么钱, 穷得天天吃泡面。(②③)

なお、本場面では粗野な表現“妈的, 我也穷啊”も確認された。1例のみではあるが、他の場面では確認されなかった表現であるため、言及に値する。“妈的”は“他妈的”と類似する罵言である。これに自分も貧しいことを示す“我也穷啊”を加えることで、相手の借金依頼を暗に拒絶している。

### 4.3 相手が親戚の場合

本場面では、婉曲・間接的な表現を使うという回答が 11 例 (68.7%)、直接的な表現を使うという回答が 5 例 (31.3%) 確認された。これらの表現を分析した結果、この場で現れたストラテジーは、①謝罪 (婉曲・間接 : 3 例、直接 : 3 例)、②事例説明 1 (婉曲・間接 : 6 例、直接 : 3 例)、③事例説明 2 (婉曲・間接 : 8 例)、④提案 (婉曲・間接 : 1 例、直接 : 1 例)、⑤同情 (婉曲・間接 : 2 例)、⑥事実確認 (婉曲・間接 : 1 例、直接 : 1 例)、⑦結論 (婉曲・間接 : 1 例、直接 : 2 例) だった (表 6)。また、複数のストラテジーを用いている回答数は表 7 のようになった。

表 6 各ストラテジーの使用状況③

	①謝罪	②説明 1	③説明 2	④提案	⑤同情	⑥確認	⑦結論
婉曲・間接	3	6	8	1	2	1	1
直接	3	3	0	1	0	1	2

表 7 複数使用されたストラテジーの使用状況③

	②③	①②③	①②	①③	②④⑥	③④	③⑤⑦	①②⑦	②⑥	①②④
婉曲・間接	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0
直接	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1

ここからは具体的な表現を確認していく。

まず、婉曲・間接的な表現についてである。多く見られたのは、順に「ストラテジー③事情説明 2」、「ストラテジー②事情説明 1」、「ストラテジー①謝罪」、「ストラテジー⑤同情」だった。

「ストラテジー③事情説明 2」の回答としてあげられたのは、相手の依頼を断らざるを得ない、具体的な事情を説明するものだった。内容は多岐にわたり、具体的には、“花钱有点狠”のように最近金遣いが荒いことを述べたもの、“最近生意不好”のように最近ビジネスが上手くいっていないことを述べたもの、“我听我父母的”のように自分は両親の言うことに従うと述べたもの、“这两天全败光了”のように無駄遣いをしたことを述べたもの、“现金都套在股市里了”のように現金は全て株につき込んだことを述べたもの、“最近儿子生病了，也急用钱”のように子供が病気になり、お金が必要であることを述べたもの、“孩子刚上幼儿园，每个月的开销一下子增加很多”のように、子供が幼稚園に上がり、毎月の支出が急に増えたことを述べたもの、“我刚报名完日语和英语的考试，这俩考试报名费都特贵，一个就四、五百呢...”のように受験料が 400~500 元する、日本語と英語の検定試験に申し込んだばかりであることを述べたものが見られた。本調査の被験者は学生が多かった。“我听我父母的”のような表現はまだ学生であり大きな自己決定権がない学生だからこそ使うことのできる「断り」のストラテジーである。



「ストラテジー②事情説明 1」の回答としてあげられたのは、これまでに現れたのと同様、“没剩钱”、“手上没有闲钱”、“手头也没有钱”、“最近手头有点儿紧”のように手元にお金がないことを示す表現、“真没有那么多富裕的钱”、“我们现在手头也不是那么宽裕”のように経済的な余裕がないことを示す表現だった。

「ストラテジー①謝罪」の回答としてあげられたのは、“不好意思”、“抱歉”である。用いられたのは、謝罪場面が軽度の場合に用いられるとされる“不好意思”と身内以外の目上に用いられるとされる“抱歉”であり、謝罪場面が中度、重度の際に用いられるとされる“对不起”の使用例はなかった。なお、対上司、対友人の場合と同様、単独ではなく、他のストラテジーと組み合わせて使用される。

「ストラテジー⑤同情」の回答としてあげられたのは、“我也挺想帮您的”及び“很想帮您”で、依頼者を助けたい気持ちはあることを述べる表現だった。どちらも単独ではなく、他のストラテジーと組み合わせて用いられる。具体的には、同情を表す表現の後に、“但”という逆接の接続詞が用いられ、事情や結論が述べられる。

だが、上記四つのストラテジーが単独で用いられたのは2例のみで、他のストラテジーと組み合わせて使用されるものが大勢を占めた(表7参照)。組み合わせは多岐にわたった。「ストラテジー②③事情説明1+事情説明2」が2例で、これにストラテジー①謝罪が加えられる例も見られた。その他、「ストラテジー①②謝罪+事情説明1」が1例、「ストラテジー①③謝罪+事情説明2」が1例、「ストラテジー②④⑥事情説明1+提案+事実確認」が1例、「ストラテジー③④事情説明2+提案」が1例、「ストラテジー③⑤⑦事情説明2+同情+結論」が1例見られた。具体的な表現は以下の通りである。

(16) 现金都套在股市里了, 手上没有闲钱。(②③)

(17) 不好意思, 最近手头有点儿紧。(①②)

(18) 不好意思啊, 最近生意不好。(①③)

(19) 我家的情况您也是知道, 真没有那么多富裕的钱, 您还是问问其他人吧。(⑥②④)

(20) 我听我父母的, 找他们。(③④)

(21) 孩子刚上幼儿园, 每个月的开销一下子增加很多, 很想帮您, 但实在拿不出来。(③⑤⑦)

次に直接的な表現についてである。多く見られたのは、順に「ストラテジー②事情説明1」、「ストラテジー①謝罪」、「ストラテジー⑦結論」だった。

最も多く見られた「ストラテジー②事情説明1」の回答例としてあげられたのは、“我哪有钱”、“我也没什么钱”のように自分もお金を持っていないというもの、“最近手头有点儿紧”のように手元不如意であるというものだった。具体的には以下の通りである。

「ストラテジー①謝罪」の回答例としてあげられたのは“对不起”である。親戚に対す

る直接的な表現として用いられた謝罪表現は、直接謝罪表現としてプロトタイプ的な位置づけにあるこの表現だけだった。

「ストラテジー⑦結論」の回答例として挙げられたのは、“没法借给你”と“没有钱借给你”である。それぞれ自身にお金がなく、相手の期待に応えられないという結論を表すものである。特に後者は、「今あなたに貸すお金はない」という直接的な表現である。

だが、上記四つのストラテジーが単独で用いられた例はなく、全て他のストラテジーと組み合わせて使用された(表7参照)。「ストラテジー①②⑦謝罪+事情説明1+結論」が1例、「ストラテジー②⑥事情説明1+事実確認」が1例、「ストラテジー①②④謝罪+事情説明1+提案」が見られた。具体的な表現は以下の通りである。

(22) 对不起, 最近手头有点紧, 没有钱借给你。(①②⑦)

(23) 我的条件你又不是不知道, 我哪有钱。(⑥②)

(24) 对不起, 我也没什么钱, 你找我妈看看吧。(①②④)

婉曲・間接的な表現で断る場合はもちろん、直接的な表現で断る場合であっても、相手が親戚であり、今後の付き合いを考慮し、謝罪表現を加えることが多いと考えられる。また、親戚とは「親」の関係にあるということから、「疎」の関係にある上司の頼みを断る場合に比べ、直接的な表現が多くなったと考えられる。そのほか、親戚なのだから自分/自分の家にお金がないことを知っているはずだという内容の表現が現れたのも対親戚にのみ見られる特徴である。

## 5. おわりに

ここまで、依頼場面における中国語の「断り」ストラテジーについて、限られたサンプルを対象として実施した予備調査に基づき、初歩的な考察を行ってきた。その結果から得られた仮説として、以下の点を示す。

本予備調査の結果からは、依頼場面における「断り」ストラテジーは、単独ではなく複数のストラテジーを組み合わせたものが多いことが示された。その組み合わせは、結論明示型と結論暗示型の二つに大別できる。結論明示型は、相手の依頼を承諾することができないことを言語化したものである。その中には(5)や(9)、(21)のように、お金を貸すことはできないと明言することを避けた婉曲・間接的な表現と、(8)や(14)、(22)のように、相手に貸すことのできるお金はないという直接的な表現が見られた。一方、結論暗示型は、相手の依頼を承諾することができないことを言語化せず、結論を暗示するタイプのものである。その中には(1)や(12)、(17)のように謝罪+事情説明によって結論を暗示する表現と、(4)や(19)のように事情説明+提案提示により結論を暗示する表現が見られた。

また、「断り」の対象が誰かに関わらず、結論暗示型の内、謝罪+事情説明により結論を

暗示する表現が最も多く用いられること、結論明示型の表現を用いる場合は、お金を貸すというフレーズを含まない婉曲・間接的な表現が用いられること、粗野な表現は、対友人場面の様に、発話者と受話者の距離が「親」の場合に用いられることが示唆された。

今後、大規模な調査を実施する際には、被験者数を増やし、結論の普遍性を高めるだけでなく、被験者の年齢、性別の比率を均等にすることにより、本稿で示した依頼場面における中国語の「断り」のストラテジーに関する仮説を、多角的に検証する。

## 注

- 1)隣接ペアのシーケンス（発話連鎖）において、あるタイプの応答形式が他のタイプの応答形式よりも典型的に現れることを優先選好（形式）という。（滝浦真人（2008：108））。
- 2)被験者の数と各ストラテジーの合計数が異なるのは、一つの回答に複数のストラテジーを使用している例が見られるためである（以下、同様）。
- 3)「不好意思」は「对不起」に比べて心情的に気まずい状況が生じたことに対する配慮的意味が強い。自分の過失責任を認めるという謝罪の適切性条件における事前条件が満たされないコンテキストにおいても使われることから、同じ謝罪の明示表現でも「不好意思」は「对不起」に比べて謝罪表現としてのプロトタイプ性がやや弱いとすることができる（彭国躍2005：205-206）。「不好意思」は対母親でも対親友でも、軽度の場合が最も多く使われ、中度から重度にかけてその使用率が大きく減っている（趙翻2012：105）。

## 引用文献

- 加納睦人・梅曉蓮（2002）「日中両国語におけるコミュニケーション・ギャップについての考察—断り表現を中心に」『言語と文化』15、文教大学大学院言語文化研究科付属言語文化研究所：19-41.
- 施信余（2005）「依頼に対する「断り」の言語行動について—日本人と台湾人の大学生の比較—」『早稲田大学日本語教育研究』6、早稲田大学日本語学会：45-61.
- 滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』、研究社.
- 趙翻（2012）「日本語と中国語における謝罪表現の対照研究—家族と親友間の異なりに注目して—」『東洋大学大学院紀要』49号、東洋大学大学院：124-98.
- ブラウン, P&レヴィンソン, S. C. (2011)『ポライトネス：言語使用における、ある普遍現象』（田中典子監訳）、研究社
- 彭国躍（2005）「中国語の謝罪発話行為のコンテクスト制約—大学生の言語意識調査に基づいて—」『中国語学研究・開篇』24、好文出版：200-212.
- 蒙韞（2010）「日中断りにおけるポライトネス・ストラテジーの一考察—日本人会社員と中国人会社員の比較を通して—」『異文化コミュニケーション研究』22、神田外語大学異文化コミュニケーション研究所：1-28.